京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION
教育創生リージョナルセンター機構
教職キャリア高度化センター

NEWS LETTER

R4年度　第3号（R5.2.1）

「学び続ける教員へのメッセージ」講演会開催のお知らせ

教職キャリア高度化センターでは、今年度も「学び続ける教員へのメッセージ」として、２０２３年２月１８日（土）に講演会を開催します。

２０２１年１月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が答申され、２０２０年代を通して実現すべき学校教育の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学び」としています。ここでは，各学校段階における子供の学びの姿や教職員の姿，それを支える環境について，「こうあってほしい」という願いを込め，新学習指導要領に基づいて，一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿が具体的に描かれています。

今回の講演会では、独立行政法人教職員支援機構理事長・中央教育審議会副会長 荒瀬克己 氏を講師としてお迎えし、この答申や学習指導要領を手がかりに、「一人ひとりの子どもを主語にする学校」の在り方について考えます。

皆様の多数ご参加をお待ちしております。なお、参加申し込み詳細については、本学ホームページやチラシにてお知らせしております。

日　時：２０２３年２月１８日（土）　１４：００～１６：００
会　場：京都教育大学藤森キャンパス　共通講義棟大講義室２

テーマ：これからの教育（令和の日本型学校教育）と
　　教師に求められる資質・能力
　　一人ひとりの子どもを主語にする学校をつくる

こちらの２次元バーコードから申込できます。

「学び続ける教員へのメッセージ」シンポジウム開催の報告

「学び続ける教員へのメッセージ」シンポジウムを１１月５日(土)に対面とオンラインライブ配信のハイブリッド型にて開催しました。今回はシンポジウムのテーマを「これからの教育(令和の日本型学校教育)と教師に求められる資質・能力　みらいの学校と子どもたち～「個別最適な学び」と「協働的な学び」～」とし、赤松大輔講師、岡田雄樹講師、福嶋祐貴講師の３名のシンポジストから教育心理学や教科教育学、教育方法学といった様々な知見から話題提供をいただき、多角的な視点から今後の教育を考えることができる場となりました。

アンケートでは、「『個別最適な学び』や『協働的な学び』といった考え方が実際にどのように活用できてどういう効用があるのかを知ることができて非常に良かった」、「改めて『協働的な学び』について考える機会となった、『個別最適な学び』との一体化とも絡めて今後の教育活動に活かしていきたい」等の声をいただき、大変好評でした。

各事業の報告

省察力育成講座

本学名誉教授の村上忠幸先生を講師にお招きし、「省察力育成講座」を ２０２２年１２月１７日(土) に開催しました。村上先生に高度化センターの未来教室にお越し戴き、そこから発信するオンライン講座を基本の形としましたが、村上先生の教え子である学生諸氏や学内の先生方も未来教室にご参集下さり、オンライン参加の皆さんともども、講座に熱心にご参加いただきました（参加者２８名）。

始めに、高柳センター長による講師紹介や趣旨説明の後、村上先生による、省察することと関わりの深いメタ認知や、オランダの教育学者コルトハーヘンが提唱する、困った時の新たな選択肢（対処策）拡大に向けた省察のプロセスであるALACT（アラクト）モデル、自身のミッションやアイデンティティ、信念といった、その人の中核(コア)となるものを、自己省察を通して探究するコアリフレクションなどをテーマとした講義やワークショップが行われ、省察について深く学んだ時間となりました。

学校経営関係講座・特別支援教育講座について

【学校経営関係講座】

本センターでは、令和４年度に本学主催の学校経営講座を３回（１１月１５日、１２月２６日、１２月２７日）開催しました。いずれも竺沙知章教授（本学連合教職実践研究科）に講師を務めていただき、学校を運営していく上で重要となる「カリキュラムマネジメントと学校財務」や「学校経営と教育法規」について講義の上、グループセッションを行いました。学校教員の方々のみならず学校事務職員の方々にも研修にご参加いただけたことから、グループセッションではそれぞれ異なる立場での学校運営に関する意見交流等も活発に行われており、活気あふれる研修となりました。

３回の研修で計８０名ほどの方に受講いただき、アンケートでは「校則の事例など、興味が尽きない例を出していただき、とても勉強になった。」、「法的根拠（リーガルマインド）を持ちつつ、子どもに寄り添う姿勢が重要だと思った。」、「学校教育において事務職員と教員が協働することで物事が進んでいけるのを感じた。」などの記載があり、好評を博しました。

【特別支援教育講座】

１１月１日にキャンパスプラザ京都にて特別支援教育・京都教育大学サテライト「思春期・青年期における発達障害の特性理解」講座が行われ、相澤雅文教授と小谷裕実教授にご講演いただきました。相澤教授からは、思春期・青年期に現れる発達障害の課題と関わり方について広く活用できる知見について講演いただき、小谷教授からは、より焦点化して医療の観点からの発達障害へのアプローチ方法について講演いただきました。

本講座には約１２０名の京都府立学校教員が参加し、アンケートでは「子どもの困り感をどのように理解し、学校生活を快適に過ごすためにはどのようにアプローチすればよいか、考えるきっかけとなった。」、「発達障害生徒の思春期、青年期における社会的発達の課題について、またいかに医療との連携を図っていくかについて詳しく教えていただき、大変勉強になった」などの記載があり、好評を博しました。

今後もセンターでは教員養成・研修の支援を行っていきます

ICT 講習

昨年度に引き続き、今年度もデジタル教科書、および授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」に関する学生向けの講習会を開催しました。７月から１２月にかけて計６回開催し、延べ７８名が参加しました。教職キャリア高度化センター教員の学内プロジェクトとして実施したものです。

６回のうち２回はデジタル教科書の出版社から講師を招き、機能や特徴、実践事例などの講義の後、一人一台のタブレットを用いて、操作を実体験しました。またうち４回は、授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」の利活用について、昨年度得られた学生のニーズを踏まえながら、児童生徒側の機能、教師側の機能、および教材の作成などを中心にグループ活動を行い、操作や実践に長けた本学学生の協力を得て学びました。

受講者のアンケートには「今までに知らなかった機能を知ることができた」「とても分かりやすかった」「グループワークで楽しく取り組むことができた」などの声が寄せられ好評でした。

スポーツ指導者養成事業

今年度は、３年ぶりに子どもへの運動指導の学び場であるKYO2クラブが再開し、授業科目「スポーツクラブ指導入門」、授業履修後のインターンシップともに、KYO2クラブスポーツ教室を活用して運動指導の実習を行いました。また、前期は昨年度に続いて京都市立藤ノ森小学校運動教室（バスケ＆体操教室、全９回）も並行して活用し、様々な子どもたちと関わりを持つことができた年度になっています。今年度のスポーツクラブ指導入門は、学生同士での指導実習と子どもに対する指導実習をミックスした新たな形で実施し（受講生３６名）、インターンシップにも１２名と多くの学生が参加しています。

中学生の大学訪問

１１月７日に亀岡市立詳徳中学校の１年生が本学を訪問されました。総合的な学習の時間を活用したキャリア教育として、大学の雰囲気を味わい視野を広げることが目的です。学生ボランティアとして３名が、グループに分かれての構内見学、生協食堂で昼食をとる活動等に関わってくれました。中学生の緊張をほぐし充実した体験ができるようにと、アイスブレイクの活動から積極的に話しかける姿は、さすが将来教員になる学生の皆さん、頼もしかったです。中学生も、大学生活について興味を持ったことや素朴な疑問を直接大学生に投げかけ、校外学習ならではの体験になるよう進んで行動できました。学校現場に出向くボランティアももちろん素晴らしい活動ですが、今回のような形で児童生徒と関わる経験も有意義なことです。学生の皆さんもチャンスがあれば是非積極的に参加してほしいと考えています。

センター教員だより

本コーナーでは、教職キャリア高度化センター所属の教職員からのコラムを掲載します。今回の投稿者は山下和美教授です。

袖ひぢて むすびし水の こほれるを

春立つ今日の 風やとくらむ　　紀 貫之

古今和歌集にとられたこの歌は，立春を詠んだものです。一首に四季の巡りが詠み込まれていますが，名ばかりとはいえ春を迎えた喜びが伝わってきます。まだまだ寒い日が続きますが，「立春」という言葉に気持ちが華やぐようです。受験を控えた方には落ち着かない日々かとは思いますが，身も心も引き締めて，夢の実現に向けての一歩を踏み出されることをお祈りします。

寒いこの時期でも，子どもたちを校門で迎えるのは楽しみの一つでした。ふだんとは違う表情に出会うことができるからです。月曜日の朝につらそうな顔で登校してくる子，朝が弱い私には気持ちがよくわかります。ある朝には，一人の児童が両手を包むようにして登校してきました。何か虫でも捕まえてきたのかと近寄ってみると，両手を私の鼻先に伸ばしてきます。開かれた手には，３，４輪のキンモクセイの花。手で温められていたせいか，いい香りが鼻をくすぐります。言葉を交わさなくても笑顔で気持ちが通じ合います。

雨の日の校門は，色とりどりの傘の花でいっぱいになります。中にじっとうつむいて佇んでいる子がいます。雨で憂鬱な気持ちなのか，それとも家で何かあったのか……。「どうしたん？」と声をかけると「何が？」と怪訝な顔。よく見ると，傘を杖のようにして傘の先から静かにしずくが流れ落ちるのを待っているようです。周りでも同じようにしている子がたくさんいました。誰に教わったのでしょうか。ルールで決まっているわけでも，意識して指導しているわけでもないのに，周りのことを気遣えている姿にうれしくなりました。

１２月には改訂版の生徒指導提要が公開されました。児童生徒の権利が重視される内容が盛り込まれ，「ブラック校則」も一挙に改善されることでしょう。すでに校長先生が校則の変更を打ち出されている学校も少なくありませんが，今度こそお仕着せでなく，子どもたちが自分の学校生活を見直し，規範意識を培える機会になればと思っています。

所属教員

センター長	髙柳　眞人
センター次長	市田　克利
	樋口　とみ子
専任教員	中垣　ますみ
	吉川　孝
	山下　和美
	椙山　直美
	福間　拓
兼任教員	榊原　禎宏
	小山　宏之
	相澤　雅文

連絡先

ボランティアオフィス
（月～水・金　10:30～13:30、木　10:30～14:30）
スポーツ指導者養成オフィス
（月～金　10:00～13:00、14:00～15:00）
事務担当
（研究協力・附属学校支援課
研究協力・センター機構支援グループ）